資料２－２

非常時におけるアドホック通信活用ユースケース(避難情報/救助要請/走行実績情報) 情報項目一覧(案)

項番	項目	項目詳細	XMLコード(例)	JSONコード(例)		ユースケース					ユースケースにおいて	証明書(ハッシュ値)による	備考
				型	タグ名	避難情報①	避難情報②	救助要請①	救助要請②	走行実績情報	必須 or オプション	確認対象	
1	メッセージID	メッセージ毎のユニークなID。 メッセージ受信時の重複判定に利用される。	<msg_id>******</msg_id>	String	id	○	○	○	○	○	必須	○	端末固有のユニークなIDと時間から生成する。
2	災害モード切替フラグ	災害モードが有効か否かのフラグを示す。 0の場合は平時とみなす。	<emg_flag>1</emg_flag>	Integer	emgflag	○	○	○	○	○	必須	○	本メッセージで災害モード切替フラグを1と設定できるのは公共機関のみとする。
3	災害モード有効期限	災害モードの有効期限。 有効期限を過ぎた後は通常モードへ移行する。	<emg_epr>031112002016</emg_epr> or <emg_epr>86400</emg_epr>	Integer	emgtime	○	○	○	○	○	必須	○	時間は秒で指定？絶対時間で指定？ 災害モードをユーザ側でONにした場合は、有効期限はなしとする。
4	災害モード有効エリア	災害モードを有効にする対象のエリア。 指定方法は円で、中心の緯度/経度/半径の 情報を格納。	<emg_area> <emg_area_lat>35.649430</emg_area_lat> <emg_area_lon>139.747992</emg_area_lon> <emg_area_rad>10</emg_area_rad> </emg_area>	String	emgarea	○	○				オプション	○	災害モードの切り替え手段によって、必須 or オプションとなる。 手段としては1)衛星、2) 放送波、3)アドホック通信、4)ユーザによる操作の いずれかが考えられるが、特に1)、2)については配信範囲が広域に なるため、本項目は必須と考えられる。
5	有効期限(expired date)	配信する情報の有効期限。 この期限を過ぎた情報は無効となる。 絶対時刻で記載。	<epr_date>031112002016</epr_date>	Integer	lifetime	○	○	○	○	○	必須	○	MMDDhhmmYYYY
6	ホップ上限	情報のホップを許容する回数。 0の場合は∞として扱われる。	<hop_limit>1</hop_limit>	Integer	hoplimit	○	○	○	○	○	必須		
7	ホップ数	情報の現在のホップ回数。	<hop_cnt>1</hop_cnt>	Integer	hopcnt	○	○	○	○	○	必須		
8	生成元	配信情報の生成元。 例えば配信する公共機関の市町村(自治体)コードを格納する。	<src>****</src>	String	from	○	○	○	○	○	必須	○	
9	配信対象エリア情報	情報を配信するエリア。 指定方法は円で、中心の緯度/経度/半径の 情報を格納。 空欄の場合は配信範囲の指定はしない。	<ref_lat>35.649430</ref_lat> <ref_lon>139.747992</ref_lon> <ref_rad>10</ref_rad>	String	area	○	○				オプション	○	
10	優先度	配信する情報の優先度。	<priority>1</priority>	Integer	pri	○	○	○	○	○	必須	○	
11	ユースケースナンバー	どのユースケースの情報かを示す数値。	<uc_num>0</uc_num>	Integer	type	○	○	○	○	○	必須	○	0:避難情報① 1:避難情報② 2:救援要請① 3:救援要請② 4:走行実績情報
12	配信情報種別	配信する情報の種別。	<event>0</event>	Integer	emgtype	○					必須	○	0:避難警報 1:注意報
13	避難必要フラグ	避難が必要な否かのフラグ。 このフラグが有効の場合、受信した端末の位置情報と 照合、端末が対象エリア内にいるかを判定する。	<evc_flag>1</evc_flag>	Integer	evaclevel	○					必須	○	0:避難必要 1:避難不要 # 避難レベルの形にして、ある閾値を超えたときに避難が必要か否かの 判定をさせてもよい。
14	避難所情報	避難所の情報。 位置情報および避難所の名称を格納。	<evc_info> <evc1_info> <evc1_lat>35.649430</evc1_lat> <evc1_lon>139.747992</evc1_lon> <evc1_name_jp>××小学校</evc1_name_jp> <evc1_name_en>××E.S.</evc1_name_en> </evc1_info> </evc_info>	String	evacctr		○				必須	○	避難所の名称は、複数言語による対応が必要
15	発信位置	情報送信者が、情報を発信した位置。 送信者の場所を特定するために利用される。	<loc_lat>35.649430</loc_lat> <loc_lon>139.747992</loc_lon>	String	loc			○	○		必須	○	
16	宛先	配信情報の宛先。	<dest>****</dest>	String	to	○	○	○	○	○	必須	○	全員(all)、もしくは緊急機関(119)等を宛先にする。 また走行実績情報の場合は、公共機関や避難所等に設置されている ゲートウェイを宛先とする。
17	傷害状況	発信者の傷害の状況。	<injure>****</injure>	Integer	state			○	○		必須	○	メッセージの定型化が必要
18	走行実績情報	通行した道路の情報。 位置情報と取得した時間を時系列で格納する。	<avail_road> <road_info_lat>35.649430</road_info_lat> <road_info_lat>139.747992</road_info_lat> <road_info_ts>031112002016</road_info_ts> </avail_road>	String	drhist					○	必須	○	通行実績を示す情報をどのように表現するか(ナビが あるなら道路リンク情報、なければ時系列のGPS情報)の 検討が必要 →決まった間隔での位置情報および時間を時系列で格納する形とする。
19	通行者種別	情報発信者の通行種別を示すタグ。	<vehicle_type>1</vehicle_type>	Integer	mobtype					○	必須	○	0:二輪 1:四輪
20	メッセージ情報	ユーザーが入力するメッセージ本文。	<message> … </message>	String	message	○	○	○	○		オプション	○	避難情報①②の場合は、災害発生の原因や具体的な災害の情報を定型文で 格納する。 日本語の場合、データサイズを小さくする工夫が必要。 また複数言語への対応や、メッセージの定型文化などの検討が必要。 文字数については、アプリケーション側で上限を決めてもよい。 (救助要請①②の場合はアプリケーション側で、避難情報①②は発信者側で 上限を決めるなど)
21	インターネット接続フラグ	車載機がインターネットに接続可能かどうかを示すフラグ。	<avail_net>0</avail_net>	Integer	netconnect					○	必須	○	
22	グルーピング情報	車載機がどのグループに属しているかを示すタグ。	<group>****</group>	String	group					○	必須	○	グループ名の許容文字数について検討が必要。
23													
24													
25													
26													
27													
28													
29													
30													
31													